

# 霧多布地区コミスクだより

## 第2号

2019. 7. 19

Kiritapputiku CS Report No .2

- 1 第2回学校運営協議会開催：ところ 浜中町立霧多布中学校 於
  - 2 第2回学校運営協議会実施状況：運営委員8名出席 事務局他2名
  - 3 「火防線花いっぱいロード運動」 令和元年7月10日(水)
- 資料1・2 学校運営協議会（コミュニティ・スクール、CS）のしくみ（再掲）

### 1 第2回学校運営協議会開催

7月12日（金）、場所を霧多布中学校に移し、第2回学校運営協議会を開催いたしました。運営委員の方々に霧中生の授業の様子をみていただき、その後協議に入りました。

区分	委員名	役職
地域住民	前谷 光	
地域住民	大野 裕幸	会長
保護者	吉崎 裕之	
保護者	南 勝	
地域住民	川原 亮	副会長
地域住民	東海林 圭太	副会長
地域住民	春日 良太	
学校	池田 倫知	
学校	佐藤 英樹	

「地域とともにある学校づくり」を合言葉に、今年度の具体的な活動推進状況を中心に協議を行いました。「学校でできること」「地域ができること」「連携の深まりが成すこと」を踏まえながら、今すぐに色々なことに取組んでいくことより、今後、先を見通し、継続性のある活動づくりのための、土台を築き上げていく活動を見出すことに視点をあて、話し合

いを進めました。次回第3回の開催は9月5日(木)18:00～19:00 霧多布小学校 会議室で行う予定です。

### 2 第2回学校運営協議会

《議 題》

- (1) 「火防線花いっぱいロード運動」の実施状況について、7月10日(水) 浜中町総合文化センター前開式、10時50分から11:20頃、参加団体は霧多布小学生2・3年児童、霧多布中学校1年生、霧多布高校ボランティア部、喜楽会、保護者等  
(今後の管理活動)
  - ・除草作業については役場との相談の上、作業日程を進めていく。
  - ・今回のように参加団体等に呼びかけていく。
- (2) 今後の活動予定と対応
  - ①地域と小・中学校の連携による活動
    - 「夏休みラジオ体操会」の実施として、実施期間を7月25日(木)～8月1日(木)の8日間行う。  
(実施向けの計画、対応)
      - ・体操会実施をCSとして、児童・生徒、保護者、地域住民へ呼びかける。
      - ・昨年度の実施、参加状況をふまえながら、呼びかけ方や実施方法を改善・工夫する。案内配付(ビラ)、運営にあたっては町内会の方に協力・依頼する。等
      - 霧多布小学校学芸会での合唱指導(10月)
        - 学芸会の実施計画案が出来上がり次第、中学校、地域へ正式に依頼。
      - 小学校の活動～「霧多布地区サポーター」日常の学習活動等による児童への学習支援として、学習支援ボランティアの募集(お知らせの文章配付)、登録。
      - 中学校の活動～スポーツ(部活等)指導の協力、地域清掃活動の実施に向けての立案づくり。

### 3 「火防線花いっぱいロード運動」

7月10日(水)10:50、浜中町総合文化センター前で、役場職員をはじめ霧多布小学生2・3年児童、霧多布中学校1年生、霧多布高校ボランティア部、喜楽会、保護者等72名ほどの参加のもと開会のセレモニーを行いました。はじめにCS会長の大野 裕幸氏からの挨拶でコミスクの意義を伝え、続けて霧多布小学校の池田 倫知校長のお話では、「地域の人たちがきれいな街づくりを目指し、よい環境にしましょう!」と激励をしました。活動に向けて、役場職員から作業方法の説明後、活動に入りました。

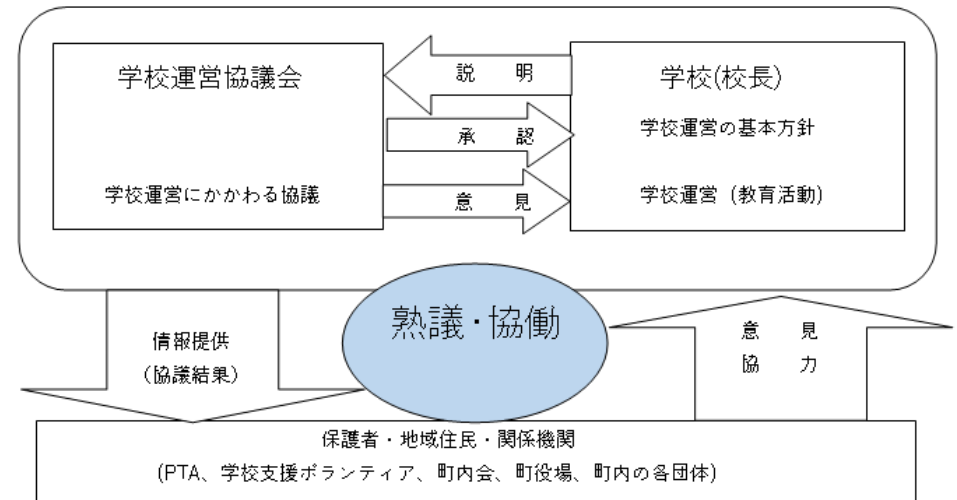
各団体6グループに分れ、文化センターから霧多布郵便局までの火防線の両側に整地された花壇に、それぞれの団体が交わったグループで作業を行いました。一つひとつの花苗を丁寧に植栽し、グループ内で植栽の仕方を教え合い、また出来栄を称賛する場面も随所にみられました。

今回の花いっぱい運動を通して、街がきれいになり、地域の人たちが心通う活動ができる場となって、「人づくり」を目指すコミスクに成ればと感じました。



### 資料1 コミュニティ・スクール (CS)

コミュニティ・スクールは、**学校と保護者・地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させ(熟議)、一緒に活動すること(協働)をとおして、地域全体で子どもたちの成長を支えるしくみのこと**です。昨年度は小学校が先行してCSのしくみを導入しましたが、今年度は小学校・中学校2校が霧多布地区CSとしてともに活動を進めていきます。



### 資料2 CSのメリットは

CSを導入することによって、児童・生徒、保護者、地域住民、教職員それぞれにメリットがあり、地域全体で子どもたちを見守り、育てていくことにつながります。

#### 子どもにとって

- ・学びや体験が充実し、思いやる心が育つ
- ・地域の担い手としての自覚が育つ

#### 保護者にとって

- ・学校の教育活動がより理解できる
- ・地域の中で子どもが育つ安心感が高まる

#### 地域住民にとって

- ・経験を活かして、生きがいとなる
- ・学校が地域とつながり、足を運べる

#### 教職員にとって

- ・地域の人や環境を学習活動に生かせる
- ・子どもと向き合いよさをより発見できる